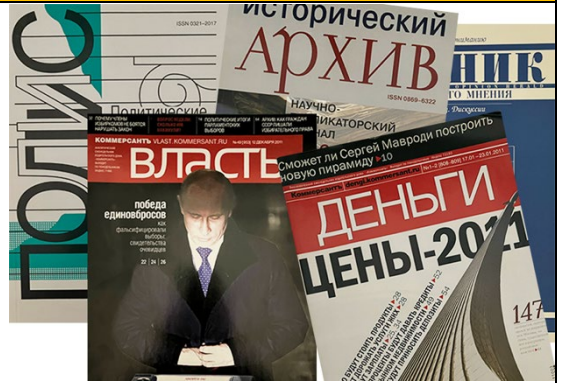


# 国際社会学部

## 鈴木義一

YOSHIKAZU SUZUKI

地域社会研究コース／ロシア地域  
経済学



### ロシア・ソ連・ロシア

19世紀末のロシア帝国の領土と、1991年に解体した時点のソ連の領土とはほぼ一致しています。したがって、この地域では少なくとも100年以上にわたって1つの国家体制と国民経済の中にありました。とくにソ連時代の70年によって、程度の差はかなりありますが、共通する政治文化、経済構造、価値観、行動様式などを現在の独立国家は共有しています。一方、この地域には200を超える民族が居住しており、言語、文化、宗教、アイデンティティが多様です。さらに、地理的空間が広大であるために、ヨーロッパに隣接する地域とコーカサス、シベリア、極東などとは、自然環境、生活状況に顕著な違いがあります。この共通する要素と多様性との両面に注目する必要があります。

### 研究紹介

おもな研究対象は、ソ連社会主義体制の経済システムと、ロシアを中心とした現代の旧ソ連地域の社会・経済構造です。

第1の研究対象については、冷戦時代、ソ連・東欧社会主義体制崩壊後の10年間、そして現在と、ソ連社会主義体制を研究する視角は大きく変化してきました。現在では、広い意味での「異文化理解」としてのソ連研究が主流です。一党独裁、集権的計画経済、独特なイデオロギーと文化など、社会主義体制は同時代の自由民主主義と資本主義経済の国々とはきわめて異質な国家と社会でした。その異質なところを、理解不能なものとして片付けるのではなく、現代の社会科学の概念・方法によって解き明かしていくというものです。それによって、政治体制の違いを超えて観察される20世紀という時代に規定された共通性や、相互作用などが明らかになります。

第2の研究対象では、とくにロシアの消費者の意識と消費行動の分析と、中口国境地域の社会・経済関係という2つの問題に焦点を当てています。ロシア経済は、石油・天然ガスをはじめとする資源輸出に依存していますが、同時に家計消費がつねに経済成長の主導的な役割を果たしてきました。消費の分析は、現代ロシアの経済・社会を理解するポイントの1つです。そしてこの消費活動は、地域による違いが大きく、4,000キロにわたり陸路で接する中口国境地域を観察すると、中国とロシアの中央政府の関係とはかなり異なる様相が見られます。

### 担当授業

- ロシア研究入門1
- ロシア・東欧経済システム論
- ロシア経済の歴史的・制度的分析
- ロシア・中央アジア諸国の政治と経済
- 旧ソ連構成諸国の歴史と現在
- 政治・経済体制の比較研究（旧ソ連構成諸国対象）

### 関連する分野

- 比較経済体制論
- 比較経済史学
- 経済システムの制度分析
- ロシア地域研究

### 出版物

ソ連史・経済史

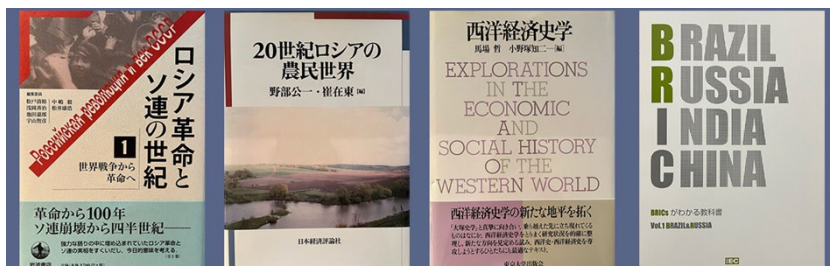
- 『ロシア革命とソ連の世紀』
- 『20世紀ロシアの農民世界』
- 『西洋経済史学』  
(いずれも分担執筆)

現代ロシア地域研究

- 「中口国境地域の社会・経済構造と「シャトル貿易」」
- 「経済制裁下のロシア社会」  
(『ロシア・ユーラシアの社会』所収)

教科書

- 『BRICsがわかる教科書』



## 国際社会学部

# ロシア・旧ソ連地域研究 ゼミ

### どのようなゼミか

このゼミでは、ロシアを中心とした旧ソ連構成諸国と旧東欧社会主義国をおもな対象として、その歴史と現状を社会科学の方法によって考察することを課題としてきました。ロシアによるウクライナ侵攻が2022年に始まって以降は、両国の政治体制、二国間の経済関係、民族的アイデンティティとその変化を中心として、戦争の背景にある歴史的・構造的問題に取り組んでいます。

ロシアをはじめとする旧ソ連地域についてはステレオタイプな見方が強く、単純な図式をあてはめた説明や不正確な論説が多く見られます。この地域の現状を正確に理解するためには、社会科学の理論と方法を用い、正確な事実に基づいた考察を行う必要があります。このゼミでは、そのような研究手法を習得することを目的のひとつとしています。この地域についての事実を知り、具体的な知識を得ることはもちろん重要ですが、それに取り組むための社会科学の研究手法を習得することも必要になります。さらに、現在のこの地域の諸問題を理解するためには、歴史的視座もとても重要な意味を持っています。

3年次の段階では、上記のテーマに関する研究文献を読み、資料を収集・分析し、議論をする作業を通じて、各自が将来の卒業論文のテーマとなる課題を決めることが目標です。またゼミでの作業を通じて、日本語・外国語の文献を正確に理解し、プレゼンテーションとディスカッションを行い、論理的な文章を記述するスキルを高めることも重要です。

(地域社会研究コース 鈴木義一ゼミ)

ロシアを中心に旧ソ連圏を対象とした地域研究の手法を学ぶゼミです。ディシプリンは政治・経済・社会・国際関係など社会科学を軸にして多岐にわたり、また現代の諸問題と歴史的な事象のどちらでも研究対象に選ぶことができます。授業では課題文献（実際に扱ったテーマは権威主義、経済システム、ナショナリズムなど）の輪読や、学生が自分の関心に合わせて収集した文献の発表、それらを基にした議論を行っています。ロシア語文献を読解して発表したこともありました。3年次秋学期からは徐々に卒論を見据えた作業が始まり、学期末には卒論の予行練習として12,000字程度の小論文を執筆します。こうした準備を踏まえて4年次には卒論執筆に取り組みます。

現在、この地域はロシアによるウクライナ侵攻をはじめとして様々な問題や火種を抱えています。その現状や背景に興味を持ち理解を深めたい皆さんへ、鈴木ゼミは門を開いています。(ゼミ学生O. S.)



左の図は「君は志願兵に登録したか」と書かれた赤軍兵を募集するソ連の政治ポスター。上の図はこれをもとに Playground AI（生成AI）がレトロ・アニメ風に変化した画像によるもの

### 卒論

- 資源依存型経済の新たな成長源を考える：サハリン州を中心に
- 移民労働者をめぐるロシアと中央アジア諸国の関係
- EU・ウクライナ連合協定締結の経済的影響：鉄鋼業を事例として
- バラ革命以降のグルジアにおけるポピュリズム
- メドベージェフ政権における外交政策の特徴は何か
- ユーロ導入がポーランド経済に与える影響

### おススメの本

- 松戸清裕『ソ連という実験：国家が管理する民主主義は可能か』
- アレクセイ・ユルチャク『最後のソ連世代』
- テリー・マーチン『アフターマティヴ・アクションの帝国：ソ連の民族とナショナリズム』
- 塩川伸明『冷戦終結20年：何がどのようにして終わったのか』